

R 8 年 2 月 放 送 分
「令和 8 年度防衛予算について」
(日本の防衛 Q & A)
(自衛隊百科)

R 8 . 1 . 2 8 収 録

【パーソナリティー】

本日は東北防衛局の池松局長から「令和 8 年度防衛予算について」お話を伺います。

局長、よろしくお願ひします。

【局長】

はい。よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

さて局長、私の手元には防衛省で作成された、「防衛力抜本的強化の進捗と予算 令和 8 年度予算案の概要」があります。

昨年末に閣議決定された令和 8 年度の防衛予算案は「過去最高額となる 8 兆 8 千億円！」とのことですが、この数字をどう捉えればよいのでしょうか？

【局長】

この 8 兆 8 千億円について、多くの皆さんが「高い」という印象を持つと思います。そこで、「不当に高いわけではない」と思っていただけのように、二つの視点からこの数字を見てみたいと思います。

【パーソナリティー】

二つの視点ですね。一つ目は何でしょうか？

【局長】

各国との比較という視点です。内訳などは各国で異なっている部分もあり、完全な比較は難しいのですが、大まかな比較をするという観点から、令和 7 年度防衛白書の資料にある「各国国防費の推移」の数字とそれらを円換算した数字を紹介させていただきます。

まず、アメリカは、約 8 千 8 百億ドルで約 1 4 0 兆円になります。

次に、中国は、約 1 兆 7 千 8 百億人民元で約 4 0 兆 7 千億円です。

また、ロシアは、約1兆3千500億ルーブルで約2兆7千300億円、イギリスは、約598億ポンドで約1兆2千800億円、フランスは、約600億ユーロで約1兆1千億円となっています。

【パーソナリティー】

なるほど、アメリカは圧倒的に多く、中国は日本の4倍もあるのですね。日本は英国やフランスに近づいたということですかね。

もう一つの視点は何でしょうか。

【局長】

防衛予算は何に使われているかという視点です。この約8兆8千億円のうち、戦車、護衛艦、戦闘機などの装備品の購入費は約19%です。一方で、隊員の給与や退職金、営内での食事など、人件・糧食費は約27%です。また、隊員の教育訓練、艦船・航空機の油、装備品の修理など、維持費が約32%です。以上で全体の約8割になります。このほか、研究開発費が約9%、基地周辺対策経費が約6%、格納庫や隊舎などの建設に係る施設整備費が約3%となっています。

【パーソナリティー】

戦車や航空機などの装備品の購入が大半を占めるものと思っていた方も多いと思いますが、人件費や維持費の方が多いのですね。

次に、令和8年度防衛予算案の内容についてお聞きしたいのですが、ポイントはどのようなことなのでしょうか？

【局長】

はい、こちらが防衛省のホームページに掲載されている令和8年度防衛予算案のポイントを説明した一枚紙になります。そこに書いてあるように、ポイントの一つは、厳しい安全保障環境の中で日本を守り抜くために必要な予算であるということ、もう一つは、この予算により防衛力の変革を加速していくということです。

【パーソナリティー】

この紙に防衛力の変革の代表例が四つ載っていますが、それらについて説明していただいてもよろしいでしょうか。

【局長】

はい、1つ目の例は、スタンド・オフ・ミサイルの増強の加速です。

スタンド・オフとは、諸外国のミサイルやレーダーの性能向上に対抗するため、相手から攻撃されることのない安全な距離を確保したところから相手部隊に対処する能力です

【パーソナリティー】

スタンド・オフと聞いてラグビーのポジションかと思いましたが、意味が分かりました。次に2つ目の例をお願いします。

【局長】

はい、人的基盤の抜本的強化です。優れた隊員を安定的に確保し続けるため、手当の新設などにより給与面の処遇を向上するとともに、個室化などにより生活環境を向上させます。

【パーソナリティー】

人材確保を重視しているということですね。3つ目の例をお願いします。

【局長】

3つ目は、無人機の大量取得です。多くの無人機によりシールドと呼ばれる多層的な沿岸防衛体制を構築します。シールドは、「S, H, I, E, L, D」と書くのですが、「Synchronized, Hybrid, Integrated and Enhanced Littoral Defense」の頭文字をとったものになります。Littoralは「沿岸の」という意味です。

【パーソナリティー】

無人アセットの活用の一例ですね。それでは、最後の4つ目の例をお願いします。

【局長】

4つ目の例は、自衛隊組織の強化です。航空宇宙自衛隊の創設や沖縄での陸自師団の創設です。

【パーソナリティー】

航空自衛隊は航空宇宙自衛隊になるんですね。

それでは最後に、東北防衛局の業務や地域との関連が深い、基地周辺対策と防衛施設整備の2点の予算についてお聞きしていきます。

まず1点目としまして基地周辺対策についてお願いします。

【局長】

基地周辺対策や防衛施設整備の予算についてお話しする前に、地域と防衛の関係について少しだけ話してもいいでしょうか？

【パーソナリティー】

はい、もちろんです。

【局長】

ありがとうございます。

昨年11月に防衛白書を説明させていただいた際にも申し上げましたが、防衛省や東北防衛局としては、地域と防衛の関係について、防衛に理解と協力を得るとともに地域に貢献する、ということを基本的な考え方としています。

この「地域に貢献」という観点から、基地周辺対策や防衛施設整備の予算は重要です。

【パーソナリティー】

なるほど。地域と防衛でウィン・ウィンの関係を築く上で重要ということですね。

【局長】

そのとおりです。そして、まず、基地周辺対策経費についてですが、これは、航空機騒音などの防衛関連の負担に対応した補助金、交付金です。住宅防音、公共用施設整備、医療費助成など、一定の枠がありますが、様々な事業に活用され得るものです。令和8年度予算案の基地周辺対策経費は、過去最高となっています。東北においても地域の発展にできるだけ貢献する形で補助金、交付金を活用していきたいと考えています。

【パーソナリティー】

では、2点目の防衛施設整備についてお願いします。

【局長】

防衛力の抜本的強化を図ることとしている7つの重視分野のうちの一つである持続性・強靱性の中では、施設の強靱化も掲げられており、従来よりも多くの防衛施設整備経費が計上されているのが、近年の予算の特徴の一つです。東北においても、それぞれの施設の地元との関係にも配慮しつつ、また、人手不足をはじめとする建設業界が抱える課題も乗り越えられるように工夫をしながら、施設整備を行っていきたいと考えています。

【パーソナリティー】

なるほど、地元にも配慮しつつ、私たちの安全を守る意思がこの予算案に込められていると感じました。

ところで、今お話のあった防衛力の抜本的強化の7つの重視分野については、昨年度予算の説明の際に解説していただいたのですが、今一度項目だけ簡潔に教えていただけますか。

【局長】

大事なことなので何度でも説明させていただきます。

一つ目がスタンド・オフ防衛能力、二つ目が統合防空ミサイル防衛能力、三つ目が無人アセット防衛能力、四つ目が領域横断作戦能力、即ち、宇宙、サイバー、陸海空領域の能力、五つ目が指揮統制・情報関連機能、六つ目が機動展開能力・国民保護、七つ目が持続性・強靱性、になります。

【パーソナリティー】

ありがとうございます。

本日は、令和8年度防衛予算について、東北防衛局の池松局長にお話をお伺いしました。ありがとうございました。

【局長】

はい、ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。